

国宝松江城天守防火対策基本計画の策定について

文化スポーツ部 松江城・史料調査課

国宝松江城天守の防火設備は、昭和30年度から平成2年度までに整備・改修をしたもので、更新時期を迎えている。立地や構造、管理運営の実態を踏まえ、最善な防災施設整備と更新後の円滑な運用ができるよう、国宝松江城天守防災施設等整備検討委員会を立ちあげ、文化庁及び有識者による指導のもと防火対策基本計画を策定した。本計画に基づき、令和4～6年度に防災施設等の更新整備を行う。

■検討経過

令和2年	9月15日	国宝松江城天守防災施設等整備検討委員会の設置
	11月5日	第1回委員会開催
令和3年	3月26日	第2回委員会開催
	6月28日	第3回委員会開催
	11月15日	第4回委員会開催
令和4年	4月28日	第5回委員会開催



■国宝松江城天守防災施設等整備検討委員会について

国宝松江城天守を対象として、総合的な防火対策を検討し、計画的な防災施設等の整備を実施するため、委員会を設置し、防火対策基本計画に関すること及び防災施設等整備事業に関することを審議する。構成委員は下記のとおり。

区 分	氏 名	所属・役職	分 野
委員長	関澤 愛	東京理科大学研究推進機構総合研究院教授	防災
委 員	岡崎雄二郎	松江城調査研究委員会城郭史部会専門調査員	文化財（史跡）
	後藤 治	工学院大学理事長	文化財（建造物）
	田中 哲雄	日本城郭研究センター名誉館長	文化財（史跡）
	和田 嘉宥	米子工業高等専門学校名誉教授	文化財（建造物）

五十音順、敬称略

国宝松江城天守防火対策基本計画の策定について

■立地や構造、管理運営の状況

○立地

- ・天守のある本丸には消防車が寄り付けない。
- ・公設消火栓から天守近傍に送水する連結送水管の送水口が遠いため、送水開始まで時間を要する。

○構造

- ・外部は土壁漆喰で屋根も瓦葺きであるため、延焼の危険性は低いが、内部は木造の柱・梁・床等で燃焼性が高い。
- ・階段は各階1階段かつ附櫓が唯一の出入口で、二方向避難ができない。

○管理運営

- ・管理は指定管理者に委任している。
- ・夜間は昼間に比べて人員が少ない。



亀田山山頂にある天守



天守内の様子

■火災段階ごとの基本方針について

文化庁策定の「世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画」、「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」及び「重要文化財（建造物）等防災施設整備事業（防災施設等）指針」も踏まえ、火災段階に対応した防火対策を講じる。

- | | | |
|----------------|---|---|
| ○前提条件 | ⇒ | 火災の各段階に適応した、ハード・ソフト両面からの防火対策を行う。 |
| ○火災予防 | ⇒ | 電気火災、落雷火災、放火火災、林野火災を想定した予防を行う。 |
| ○早期発見・通報 | ⇒ | 早期に正確な火災情報を検知でき、速やかに消防に通報できる設備を導入し運用する。 |
| ○避難誘導 | ⇒ | 登閣者が安全かつ速やかに避難できる体制を整備する。 |
| ○初期消火 | ⇒ | 少人数体制でも対応できる、消火設備の自動化・易操作化を行う。 |
| ○消防隊による消火活動の開始 | ⇒ | 消防隊の使用を想定した消火設備を整備する。 |

国宝松江城天守防火対策基本計画の策定について

文化スポーツ部 松江城・史料調査課

■基本方針に基づく防火対策 1/2 <主なポイント>

火災段階	防火対策の主な内容
火災予防	・放火の抑止と火災時の迅速な状況確認のため、自動火災報知設備と連動した監視カメラを増設する。 ・落雷に起因する火災発生を防止するとともに、雷による防災設備の破損を防止する雷保護システムを整備する。 ・樹木から天守への延焼を防ぐため、天守に近接する樹木を伐採する。 ・電気系統を原因とする出火等を防止するため、定期的な点検・清掃を行う。
早期発見・通報	・煙の濃度に合わせ段階的に感知できるアナログ式煙感知器、その作動箇所が特定できるR型受信機に更新する。 ・放火火災を早期に発見するため、天守内外に炎感知器を増設する。 ・自動火災報知設備と連動して消防機関へ自動通報する、火災通報装置を新設する。 ・通報訓練を定期的に行う。



計画案
R型受信機



アナログ式煙感知器



炎感知器



火災通報装置

※感知器は、茶系に塗るなど景観に配慮する。

国宝松江城天守防火対策基本計画の策定について

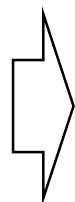
文化スポーツ部 松江城・史料調査課

■基本方針に基づく防火対策 2/2 <主なポイント>

火災段階	防火対策の主な内容
避難誘導	・火災時に迅速な避難ができるように、非常放送設備を新設する。 ・二方向避難を確保するため、必要な避難器具を新設する。 ・避難訓練を定期的に行う。
初期消火	・天守内外の消火栓は、1人で操作可能な易操作性に更新する。 ・凍結破損対策として、閉鎖型湿式スプリンクラーから閉鎖型・予作動式（乾式）スプリンクラーへ変更し、全階に増設する。 ・円滑な更新と連続放水が可能な貯水・送水環境を構築するため、貯水槽等を本丸外へ移設する。 ・消火設備の操作方法の訓練を定期的に行う。
消防隊による 消火活動の開始	・外部から天守内外に送水することができる連結送水管の送水口を消防車が近接できる箇所に設ける。 ・自衛消防隊から公設消防隊への引継ぎ事項を整理する。



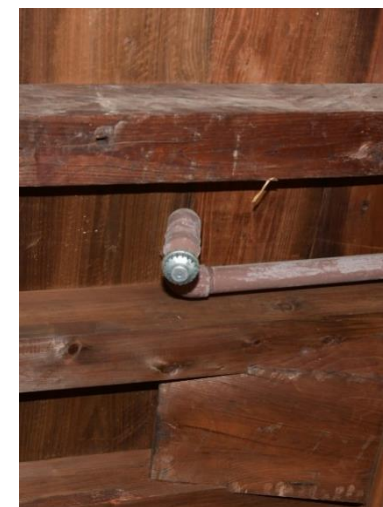
現状の設備
1号消火栓



計画案
易操作性1号消火栓



現状の設備
閉鎖型湿式スプリンクラー



国宝松江城天守防火対策基本計画の策定について

文化スポーツ部 松江城・史料調査課

■事業スケジュール

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実施設計			
設計監理			
地盤調査			
発掘調査			
電気配線調査			
樹木伐採			
防災施設整備工事			

■事業費概算

【令和4～6年度事業費】 約6億円

【財 源】 ・ 文部科学省 国宝重要文化財等防災施設整備費補助金 65%

・ 島根県文化財保存事業費補助金 国費補助残額の1/3以内